

《 諫 干 だ よ り 》

.....◆◆◆2007/3/1◆◆◆

◆◆◆目 次

- ◆諫早湾干拓事業にかかる最近の動き
- ◆トピックス
 - ◇諫早湾地域まちづくりシンポジウムの開催について
 - ◇第28回諫早湾干拓地域環境調査委員会の開催について
 - ◇(財)長崎県農業振興公社理事会の開催について
 - ◇諫早湾周辺地域環境保全農業推進フォーラムの開催について
 - ◇営農実証試験現地検討会の開催について
 - ◇諫早湾干拓地営農研究会の開催について
- ◆総合農試干拓科だより(促成トマト栽培)
- ◆九州農政局干拓事務所通信(幹線道路及び支線道路)
- ◆九州農政局通信〔農地・水・環境保全対策(コスモスロードで地域づくり)〕
- ◆その他(意見、提案の募集)
- 編集後記

◆◇◇諫早湾干拓事業にかかる最近の動き.....

- 平成19年2月4日(日)
□諫早湾地域まちづくりシンポジウムが開催された。
- 平成19年月2日14(水)
□第28回諫早湾干拓地域環境調査委員会が開催された。
- 平成19年2月14日(水)
□(財)長崎県農業振興公社理事会が開催された。
- 平成19年2月20日(火)
□諫早湾周辺地域環境保全農業推進フォーラムが開催された
- 平成19年2月21日(水)
□営農実証試験現地検討会が開催がされた
- 平成19年2月26日(月)
□諫早湾干拓地営農研究会が開催された。

◆◆◆トピックス

◆◆◆諫早湾地域まちづくりシンポジウムの開催について

2月4日、諫早市高来町の高来ふれあい会館で「諫早湾地域まちづくりシンポジウム」が開催されました。諫早市議会諫早湾地域振興調査特別委員会が、諫早湾干拓事業の工事の完成の前に、同事業で生み出される自然干陸地や水辺などをどのように生かすかを探るために開催したものです。パネルディスカッションでは、「干陸地に菜の花などを植えれば壮大な観光スポットになる。」とか「新しい生態系が生まれているので、その自然を売り物に、体験型観光が可能」とか様々な意見がでました。



◆◆◆第28回諫早湾干拓地域環境調査委員会の開催について

2月14日、「第28回諫早湾干拓地域環境調査委員会」が長崎市内で開催されました。

会議では、諫早湾干拓事務所から完成が近づき完了整備が進められている工事内容の説明の後、環境モニタリング(環境監視)について、環境モニタリング結果のまとめや平成19年度の環境モニタリング計画について、説明がありました。

これについて、委員の方々から水生生物や野鳥・動植物などのモニタリング項目について専門的な立場から助言や指導が行われました。

◆◆◆(財)長崎県農業振興公社理事会の開催について

2月14日、セントヒル長崎に於いて、「平成18年度第3回長崎県農業振興公社理事会」が開催されました。

今回の議案では、公社が国から諫早湾干拓地の一括配分を受けることによる取得財源(土地改良負担金)について、農林漁業金融公庫より借り受けすることが承認されました。

◆◆◆諫早湾周辺地域環境保全型農業推進フォーラムの開催について

2月20日、諫早市のながさき看護センターで「諫早湾周辺地域環境保全型農業推進フォーラム」が開催され、約200名の参加がありました。

このフォーラムは、諫早湾干拓地での営農開始を間近に控え、諫早湾干拓地周辺地域での環境保全型農業を推進するために開催されました。

まず、基調講演では、農林水産省環境保全型農業対策室 安岡課長補佐が「人と環境にやさしい農業とは」と題して、環境保全型農業の推進に関する国の考え方、並びに支援策について、講演が行われました。

その後、諫早湾干拓事務所から「諫早湾干拓事業の概要について」、県環境政策課から「諫早湾干拓調整池水辺環境の保全と創造のための行動計画について」、県農産園芸課から「諫早湾干拓農地における環境保全型農業の推進について」の報告がありました。

さらに、「人と環境にやさしい農業とは何か」をテーマに、環境保全型農業を実践している農業者5名をパネリストに迎え、助言者には基調講演の安岡課長補佐にお願いし、コーディネーターを東顧問がつとめ、活発な議論が行われました。

それぞれのパネリストから、自らが取り組む環境保全型農業についての話があった後、化学肥料、化学農薬を減らす技術、労力、コスト、収量、品質、の問題、環境保全型農業を地域全体に広げるための課題、諫早湾周辺地域では環境保全型農業を推進する上でどのような対策が必要かなど、様々な意見が出されました。

パネリストの意見は、それぞれが環境保全型農業を実践している上での意見であり、今後、環境保全型農業を推進し、地域に広げていく上で、貴重な意見交換ができました。



パネルディスカッション

【パネリスト】

- | | |
|---------------|--------|
| ・(農)小野生産組合 | 西村誠治 氏 |
| ・JAながさき県央玉葱部会 | 坂田秀喜 氏 |
| ・愛の町農友会 | 松尾宗樹 氏 |
| ・長崎ECOF | 吉本安弘 氏 |
| ・(有)匠集団おおぞら | 荒木隆太郎氏 |

◆◇◇営農実証試験現地検討会の開催について◆◇◇

本年度実証試験の2回目の現地検討会が、実証農業者の皆さんと関係機関の参加のもと、2月21日に開催されました。ブロッコリーの試験では、機械化一貫体系確立のための調査も行っており、同日に畦成形同時施肥機と半自動移植機の実演がありました。この畦成形同時施肥機は畦の中だけに施肥することによって減肥が可能で、干拓地で目指している環境にやさしい農業にマッチしたものです。



また、秋ばれいしょの試験に取り組まれた方からは、「これまでに数作、諫干でのばれいしょの試作に取り組んだが、現時点では病害の発生が少ないため1作あたり1～2回の防除で十分であり、諫干での営農においては大区画ほ場の利点を生かして輪作体系に取り組むのが良い」との意見が聞かれました。



平成18年度営農実証試験の概要

作付品目 (品種)	耕種概要 (数値は全て10a当たり)	主な意見・感想等
ブロッコリー① (ピクセル)	定植 9月6日、7日 (半自動定植機利用) 施肥 元肥 エコスマイル 100kg 追肥 BB239号 40kg N換算20kg (元肥は畦成形同時施肥) 中耕土寄せ 9月15日、9月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・施肥量は県基準の約70%だが、生育は順調。 ・収穫は11月中旬～12月中旬。 (台風の影響により、収穫期間が長くなった) ・収量は約1,100kg。 ・秀品率は97%に達し、品質が非常に良かった。 ・肥料効きが良いため、生育も順調だった。 ・定植、土寄せ、防除等の機械化体系も併せて検討。
ブロッコリー②	定植 2月21日 (半自動移植機利用) 施肥 元肥 エコスマイル 100kg	<ul style="list-style-type: none"> ・12月に収穫を終えたほ場の後作として作付。 ・機械化一貫体系を目指しており、2月21日に畦成形同時施肥を行った後、半自動移植機で定植。今後も三連カルチによる土寄せ、ドラフト低減ノズルを装着してブームスプレーヤ等を利用予定。

作付品目 (品種)	耕種概要 (数値は全て10a当たり)	主な意見・感想等
秋ばれいしょ① (ニシユタカ)	播種 9月15日 施肥 硫安 80kg(100%元肥) N換算16.8kg 収量調査 12月16日 4,951kg	<ul style="list-style-type: none"> ・初期成育はやや遅れたものの後半は順調に生育。 ・12/16時点では、霜によりほとんど枯死した状況。 ・2L以上が56%を占め、161g/個と大いも傾向。 ・そうか病は発生していないが、肌荒れが見られた。 ・収穫物に土が付着するため、何らかの対策必要。 ・ほ場の一部は、11月中旬に収穫し、たまねぎを定植。 (11月中旬の収量は約2t)
秋ばれいしょ② (ニシユタカ)	播種 9月19日～20日 施肥 元肥 硫安40kg 追肥 硫安20kg(培土時) N換算12.6kg 収量調査 12月16日 4,165kg	<ul style="list-style-type: none"> ・干ばつ年だったが、生育は順調。(灌水を1回実施) ・ハスモンヨウの被害を心配したが、病害虫は発生せず無農薬で栽培できた。 ・既耕地が平均約2tの収量であり、結果には非常に満足している。 ・営農実証試験に参加したのは4作目になるが、ばれいしょの作付ほ場は、毎回変更となったためそうか病等の土壌病害が発生していない。 (※ばれいしょ栽培では輪作が必要) ・干拓地の試験栽培で生産したばれいしょを種子として既耕地で利用したところ、高い評価を受けた。
キャベツ (YR50, 緑春)	定植 9月7日(10月2日) 施肥 元肥 硫安 80kg 追肥 硫安 40kg N換算25.2kg 収量調査 11月30日 5,150kg 12月26日 5,848kg	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に比べて施肥量を減らしているが、生育は順調。 ・台風及びココロギの被害、雑草多発でやや減収。 ・概ね生育は順調だったものの、灌水管理や雑草対策に苦慮。 ・収穫物の品質はまずまずだったが、市場全体が安値で低迷しているため、販売物の適正な評価は得られなかった。
レタス (ツララ)	定植 11月16日～18日 施肥 元肥 有機入り高度化成 160kg N換算16kg	<ul style="list-style-type: none"> ・生育はそのものは順調だが、地温が上がりにくいいためか既耕地に比べ生育がややおそい。

作付品目 (品種)	耕種概要 (数値は全て10a当たり)	主な意見・感想等
たまねぎ① (ヒロマル、 レクスター)	(レクスターの耕種概要) 定植 11月9日 施肥 元肥 たまねぎ名人 180kg 追肥 たまねぎ名人 20kg N換算30kg	・初期成育は順調
たまねぎ② (Y100、さくら 七宝早生7号)	(Y100の耕種概要) 定植 12月7日 施肥 元肥 硫安86kg N換算18kg (他に肥料の銘柄、施肥量を変えて複数区設定)	・初期成育は順調
たまねぎ③ (さつき)	定植 1月11日～12日 施肥 元肥 なたね油かず 156kg	・有機栽培による試験を実施。 ・初期成育は順調
たまねぎ④ (もみじ)	定植 1月中旬 施肥 元肥 硫安86kg N換算18kg	・初期成育は順調

◆◇◇諫早湾干拓地営農研究会の開催について……………

2月26日、「第5回諫早湾干拓地営農研究会」が長崎市で開催されました。

この日の研究会では、今までの11法人のメンバーに新たに1法人の会員紹介があり、その後、諫早湾干拓地における営農に関する意見交換が行われました。

また、報告事項として、営農に関するアンケートで寄せられた予定栽培作物や機械等の整備計画、倉庫や施設整備の要望及び意見等の報告が行われました。

その後、「諫早湾干拓地における営農に関する意見書」として提出する内容について協議が行われました。

本研究会では、諫早湾干拓地での営農を希望する農業者や農業生産法人が集まり、営農開始に向けた研修等を実施しています。

入会希望の方は、事務局(長崎県農業会議 095-822-9647)までご連絡下さい。

営農試験 Now

諫早湾干拓地の促成トマト栽培について

総合農林試験場干拓科
川原 洋子

はじめに

諫早湾干拓試験地では、ジャガイモ、タマネギ、ニンジンなどの露地野菜の試験栽培を行ってきましたが、2005年度から花きや施設野菜の試験を開始しています。そこで、今回は促成トマト栽培の試験状況について紹介します。

全国的に強い水ストレスや塩類ストレスを与えて栽培される高糖度トマト「フルーツトマト」という新たな品種が市場で人気を集めるなか、熊本県の八代干拓地で栽培されている高糖度トマトは別名「塩トマト」と呼ばれ、干拓地が持つ豊富な塩類を利用して栽培されています。諫早湾干拓地も、有明海が自然干陸化した土壌で、土壌塩類が豊富に含まれていることから、高糖度・高品質のトマトが期待できます。

また、諫早湾干拓地では、環境にやさしい農業を目指していますので、促成トマト栽培についても適正な肥培管理を行いながら、高糖度・高品質のトマト栽培を目指し試験を行っています。そこで、1年目の2005年度は諫早湾干拓地におけるトマトの栽培適応性を判断するための試験を実施しました。

試験の概要

まず、試験開始1年目は諫早湾干拓地でのトマト栽培について、県内で主要な「麗容」と「ハウス桃太郎」の2品種を栽培しました。

○耕種概要

定植日 2005年11月28日
 収穫 2006年2月6日～5月31日
 栽植密度 畝幅150cm×株間45cm, 2,000株/10a
 窒素施肥量 16kg/10a

ハウス建設が遅れたため定植日が遅くなりましたが、各段ごとに総収量と1果重を調べました。その結果、総収量は「麗容」が「ハウス桃太郎」に比べて多くなり、1果重はほぼ同等となりました（表1）。

表1 「麗容」と「ハウス桃太郎」の収量

段数	麗容		ハウス桃太郎	
	総収量(kg/10a)		1果平均重(g)	
1	713	649	93	83
2	985	828	113	109
3	1,301	1,058	112	105
4	1,528	1,508	165	156
5	1,178	1,418	115	159
6	859	813	87	90
7	671	505	68	58
8	378	387	58	57
合計	7,613	7,167	811	817



2年目の今年は、昨年の収量が良かった「麗容」を供試品種とし、窒素肥料の溶脱をできるだけ減らし環境保全型農業を目指すための減肥試験や、肥料がゆっくり溶け出る緩効

性肥料を使って追肥の作業を省力化するための試験を行っています。

○耕種概要

定植日 2006年9月6日（9月17日の台風13号の直撃による被害を受けました）

植え替え 2006年10月6日

収 穫 2007年1月16日～

栽植密度 畝幅150cm×株間45cm, 2,000株/10a

○試験内容

トマト栽培では、定植時に与える基肥の他に、生育の途中で追肥を行っています。そこで、①諫早湾干拓地ではどのタイミングで肥料を与えたらよいか判断するための追肥の適正時期を判断する試験、②手間がかかる追肥の作業を省くために緩効性肥料を使った試験、③減肥を目的に施肥位置を変えた試験を行っています。

○実施状況

追肥の適性時期を判断する試験では、ピンポン玉程度に肥大した果房の近くの葉柄を粉砕して、小型反射式光度計（RQフレックス）で硝酸イオン濃度を測定します。追肥時期は、葉汁の硝酸イオン濃度2,000ppm以下が目安と言われています（図1）。

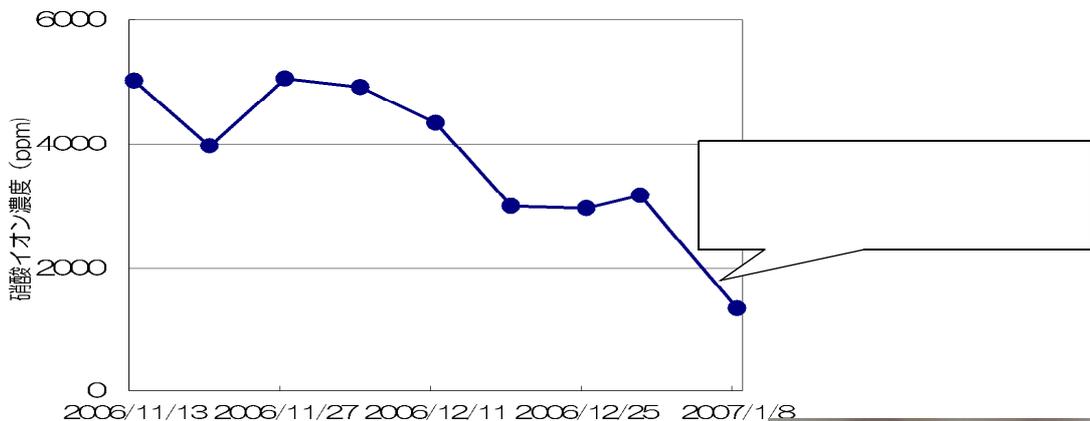


図1 トマト葉柄中の硝酸イオンの推移

収穫の開始から、これまでの糖度（Brix）は6%前後です。



写真2 「麗容」の果実内

まとめ

現在のところ九州各県、県下でも問題が起こっている黄化葉巻病等の発生もなく順調に収穫が続いています。トマトは、作り方次第で収量・品質をコントロールできる品目ですので、肥培管理の関係について引き続き調査を行いながら、高糖度トマト栽培の技術確立について検討していきたいと思えます。

.....

◆◇◇九州農政局干拓事務所通信(幹線道路及び支線道路)

1. 幹線道路

中央干拓地の幹線道路は、地区内と背後地を結ぶ基幹道路として、諫早・森山方面と接続する東西幹線道路を延長約 3km 設置しています。

小江干拓地の幹線道路は、地区内と背後地を結ぶ基幹道路として、国道 207 号線と接続する小江幹線道路を延長約 400m 設置しています。

道路幅員は 7m、構造はアスファルト舗装となっておりますが、いずれも取付部までが完成していますが、地区内の幹線道路については簡易舗装及び未舗装の状態となっており、今後、アスファルト舗装等の整備工事を行います。



整備された東西幹線道路(小野島地先の中央干拓地入口付近)



整備された小江幹線道路(小江干拓地入口付近)

2. 支線道路

支線道路は各ほ場に連絡する道路で、農作業の往来、作物の栽培・管理・ほ場からの搬出等を行うために設置しています。

中央干拓地の支線道路は、東西幹線道路から分岐して東西方向に 5 路線、南北方向に 1 路線、内部堤防沿いの排水路のほ場側に 3 路線の計 9 路線、延長約 20km 設置しています。

小江干拓地の支線道路は、小江幹線道路から分岐して東西方向に 1 路線、南北方向に 1 路線の計 2 路線、延長約 2km 設置しています。

支線道路は農作業に必要な大型作業機械やトラック等の車両の通行に支障のない構造(幅員)となっています。道路幅員は 7m、構造はアスファルト舗装となっており、地区内については簡易舗装及び未舗装となっており、今後、アスファルト舗装等の整備工事を行います。



アスファルト舗装を待つ支線道路 4 号(現況:砂利道)中央干拓地



アスファルト舗装を待つ支線道路 10 号(現況:砂利道)小江干拓地

なお、各ほ場への進入は、支線道路に連結しています耕作道路からの進入となります。

◆◇◇九州農政局通信〔農地・水・環境保全対策(コスモスロードで地域づくり)〕 ……

今回は、諫早湾干拓地の営農に類似する大規模畑作が展開されている北海道斜里郡清里町清里地区の事例を紹介します。

【地域の概要と取組の経緯】

知床世界自然遺産への玄関口ー斜里岳の麓に位置する清里地区は、広大な土地と豊かな自然のもと、土地利用型の大規模畑作農業が展開されています。

清里地区では、数人の農業者が独自に始めた幹線道路沿いの農地にコスモスを植栽する活動(上斜里フラワーロード推進協議会)が、現在では、「フラワーロード」として親しまれ、ガーデンコンテスト等を開催する「花と緑と交流のまちづくり」が町のスローガンとなるなど、町民全体の景観に対する意識の高い取組へと発展しつつあります。



コスモスの植栽や花壇整備による景観創出

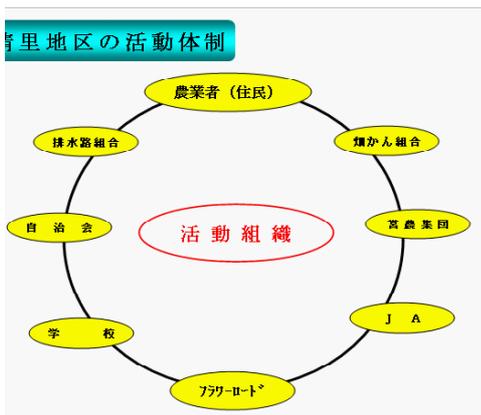
一方で、美しい農村景観の基礎となる農地、農業用排水路、農道などの資源は、農業者が共同で手入れをしていますが、経営面積が数十haにおよぶ本地区では、これらの資源の保全活動が困難となっています。



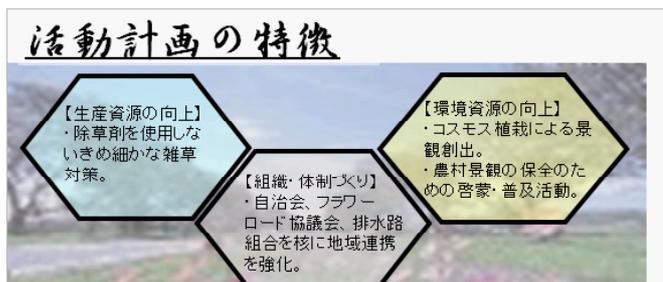
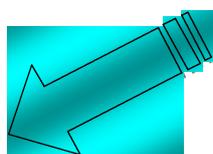
学校教育との連携した防風林遊歩道周辺の整備

このため、農地・水・環境保全向上対策の実施に向けた実態調査を契機に、活動組織となる懇談会を立ち上げ、共同活動に取り組むことにしています。

【活動組織と活動計画】



清里地区の活動組織は、左の活動体制のとおり、自治会、学校、農業団体などが参画する懇談会を立ち上げ、「地域資源の再確認」、「管理のあり方や各組織、各農業者、地域住民の役割」について検討を進め、「花と緑」を基調とする町づくりの輪を広げることが基本にしており、具体的には、活動計画の特徴のとおりです。



.....◆
◇◇その他(意見、提案の募集).....

～皆様のご意見をお寄せ下さい～

定期的に、諫早湾干拓室からのお便りを差し上げているところですが、お知らせの内容その他につきましてのご意見やご要望等ございましたら、諫早湾干拓室までお寄せ下さい。

なお、今後、お便りを差し上げる場合にEmailでの送付をご希望の方はメールアドレスをお知らせ下さい。

送付先 〒850-8570(住所記載不要) 長崎県農林部諫早湾干拓室
(TEL 095-895-2051 FAX 095-895-2595)

Email s07050@pref.nagasaki.lg.jp

お願い Emailでご意見やご要望等をお寄せいただく場合には、恐れ入りますがメールの件名を諫干だよりで設定し送信をお願いします。

.....
●編集後記

ようやく日足も延びてきたようで、春の気配が感じられるようになりました。草木も動物たちもこれから活動的になります。

諫早湾干拓事業もこの3月には公募基準等について公表することとなり、入植・増反を希望される皆さまは、これから忙しくなることと思います。

具体的な入植・増反の検討について、よろしく申し上げます。